

EVENT&TOPICS

▶大阪市中央区東医師会 法円坂地域医療フォーラム

2024年5月25日(土)に「大阪市中央区東医師会法円坂地域医療フォーラム」を開催いたしました。

下部消化管外科、脳神経内科、消化器内科の当院医師が、「直腸癌に対する肛門温存治療の現状と当院の取り組み」、「脳動脈狭窄症の診断と治療の最前線」、「肝疾患の最新の話題～C型肺炎から脂肪肝まで～」の3講演を行いました。

当院では年1回、大阪府内各市区の医師会との意見交換会を兼ねた勉強会として「医師会法円坂地域医療フォーラム」を開催しております。地域の先生方とより一層連携しながら地域医療に貢献したいと考えておりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、本フォーラムが大阪府内各市区の医師会とより密接な病診連携を築く場となりますと幸甚です。

▶当院主催の法円坂地域医療フォーラムについて

当院では、地域の医療機関の先生や看護師、コメディカルの方々との連携をより深めるために、年3回医療関係者向け学術講演会を開催しております。ぜひご参加ください。

● 今年度の予定

日付	診療科
2024年7月6日(土) 開催済み	消化器外科・消化器内科
2024年11月30日(土)	脳神経外科・脳神経内科
2025年2月8日(土)	肝胆脾外科・消化器内科



読者
アンケート

ONH NEWS[オーエヌエイチニュース]では、年4回、当院の最新情報をお届けいたします。
より充実した広報誌づくりの参考にさせていただきますので、アンケートにご協力お願いします。



ONH NEWS

大阪医療センター 地域医療連携広報誌
[オーエヌエイチニュース]

No.
83

2024
Summer

特集—クロストーク

異なる視点だからこそ見えてくる
「これから地域医療連携」



大阪市中央区東医師会 会長
村野 実之

大阪医療センター 院長
松村 泰志

大阪医療センター
地域医療連携推進部長
翼 啓司

特集 | クロストーク

異なる視点だからこそ見えてくる

「これからの地域医療連携」

地域住民の方々が、良質かつ適切な医療を受けられることを目的に推進されている地域医療連携。各地域において効果が現れている一方、まだまだ改善すべき課題があるのが現状。今回の特集は、大阪市中央区東医師会 会長の村野先生をお迎えし、当院 院長、地域医療連携推進部長を交え、「これからの地域医療連携」をテーマにしたクロストークをお届けします。

最適な医療を提供する環境を 地域全体でつくる

異 地域医療連携推進部長(以下:敬称略) :

今回の特集は、大阪市中央区東医師会 会長の村野先生をお招きし、「これからの地域医療連携」について意見交換ができるべきだと思います。それではじめに、中央区東医師会としてどのような姿勢で地域医療連携を取り組まれているのかをお聞かせ願えますでしょうか。



村野 会長(以下:敬称略) :

何よりもまず患者さんが中心ですので、できる限り患者さんに負担をかけずに最適最良な医療を受けていただける環境づくりが私たちの使命であると考えております。そのためには開業医が日々の健康管理を担い、高度かつ専門的な診療を受ける必要がある場合には然るべき病院にお任せできる体制が不可欠です。そのうえで地域の基幹病院である大阪医療センターとも密に連携できる関係を維持していかたいと考えています。

村野: 大阪医療センターは「法円坂地域医療フォーラム」をはじめ、合同研究会や情報交換会などを開催してくださるので、強みや力を入れておられる取り組みを知ることができるのであります。

松村: 村野先生には積極的にイベントにご参加いただき感謝しています。多くの先生に参加していただけるよう、内容を含め告知方法なども検討していかたいと考えています。

紹介・外来予約システム導入をはじめ さまざまな課題に対して柔軟に対応

異: より良い地域医療連携を目指して医師会と当院は協力しながら取り組んでいるわけですが、そのなかで感じる課題や当院への要望などがあれば、お聞かせいただければと存じます。

村野: 私自身は開業して10年以上になり、大阪医療センターとの信頼関係は築けています。でも、開院した当初は、名前に圧倒されて敷居が高く感じられたのが正直なところです(笑)。現在、開院して間もない先生方は同じ印象を持たれているかもしれませんね。実際は柔軟に対応してくださる

ですが、開業医に近い病院であることを打ち出していくだけだと、プライマリ・ケアなどで悩んだ時に連絡しやすくなるのではないかでしょうか。

松村: 貴重なご意見ありがとうございます。当院はできる限りご紹介いただいた患者さんに対応するよう取り組んでいますが、そうした姿勢を院外に発信できているかといえばまだまだ不十分。疾患の早期発見・早期治療につなげるためにも、軽微な症状であっても重大な疾患の可能性が考えられる場合は、ご紹介いただければと思います。



異:これまでご紹介いただく際は、用紙に記入のうえファックスを送つていただきましたが、今はそれに加えてインターネットでも予約をとっていただけるようにしています。さらに、ご紹介いただいた後も迅速に対応する体制づくりに注力しているところです。たとえば、これまで診療科に問い合わせがあった

場合、ご返答まで時間がかかることがありました。そうしたタイムロスを少なくするために一部の流れをマニュアル化して、正確性を保ちながらスピードアップを図っています。

松村: その他にも2024年9月を目標に、新たなご紹介・外来予約システムの導入を進めています。当院で対応可能な診療をリスト化してそれを開業医の先生と共有し、システム上でご紹介していただいた後は、当院と患者さんが直接やりとりをして診察の日時を決めるというものです。

村野: それはぜひ実現していただきたい。私たちの業務負担が軽減されるだけでなく、患者さんをお待たせる時間が短縮できることがたいであります。

異: 地域医療連携において救急の受け入れも欠かすことのできない課題です。

松村: 地域住民のみなさんの安心感にもつながることですので、当院では救急患者の受け入れ要請を可能な限り断らない姿勢で取り組んでいます。

異: 救急の場合、満床であったり、要請のあった診療科の医師が手術中であったり、すぐに対応できないこともあります。そうしたケースではひとまず救命救急センターで対応し、その後必要に応じて適切な診療科や他の

医療機関につなぐようにしています。

松村: 限られたマンパワーで、いかに質の高い医療を展開するかが基幹病院に求められること。そのためには、各診療科がカバーし合う院内体制が欠かせません。そういった点も今後さらに強化すべき課題だと考えています。

日々の連携に加えて 災害医療対策での連携が急務

異: それでは最後に、今後の展望をおうかがいできればと思います。

村野: 地域の開業医と基幹病院それぞれが担う役割を果たすためにも、より密に連携していかたい。そのなかでプライマリ・ケアを含めいろいろなことを相談できる関係を築きたいと考えています。また、災害医療対策についても地域の基幹病院との連携が非常に重要です。万一の事態に備えて、どのようななかたちで連携・協力するのが良いのか、可能なのかを話し合い、具体化できればと思います。

松村: 当院は災害拠点病院であるので、村野先生がおっしゃったことは重くとらえています。最近も大規模な災害訓練を実施し、そこから地域の医療機関や住民の方々の視点が不足しているのではないかという反省点が出てきました。そうしたことも踏まえ、医師会の先生方にご意見をいただきながら災害医療対策に取り組んでいきたいですね。



日々の連携については、ご紹介いただいた患者さんの治療が落ち着けば再びかかりつけ医の先生にお任せし、状態に応じて当院で精密検査をしたり、他院を紹介したりできる体制がベスト。そのため連携強化を図るとともに、各診療科の質向上に取り組んでいるところです。また、今後の展望として、地域の開業医の先生と協力した研究活動ができるべきという想いを持っています。

村野: 退院後の追跡データの収集などで、私たち開業医が貢献できるのではないでしょうか。

松村: そう言っていただけると心強いです。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

PROFILE



大阪市中央区東医師会 会長
医療法人むらのクリニック 院長

村野 実之(むらの みゆき)
2011年むらのクリニック開業。現在、大阪府内科医会の理事を務める。2022年6月一般社団法人大阪市中央区東医師会会長に就任。



大阪医療センター 院長

松村 泰志(まつむら やすし)
循環器内科学、医療情報学を専門領域とする。大阪大学大学院医学系研究科名誉教授。2021年大阪医療センター院長に就任。

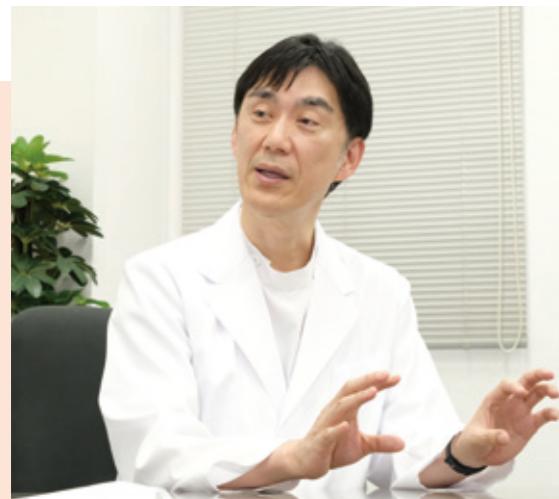


大阪医療センター
地域医療連携推進部長
産婦人科 科長

異 啓司(たつみ けいじ)
産婦人科専門医・指導医、京都大学医学部臨床教授、医学博士。2012年産婦人科科長、2018年より現職。

♪ Doctor's View 当院診療科の代表医師が

医師が語る診療科の“現在”



循環器内科

循環器内科 科長 / 不整脈センター長 / 職員研修部 副部長

井上 耕一 Inoue Koichi

幅広い循環器疾患に対して 最先端かつ専門性の高い治療を展開

循環器内科の特徴は、心不全、不整脈、狭心症、心筋梗塞など、さまざまな循環器疾患に対応するなか、SHDといわれる構造的心疾患のカテーテル治療にも力を入れています。重症の患者さんをメインに、最先端かつ専門性の高い治療を行っています。

構造的心疾患に対する カテーテル治療に注力

循環器内科には約20名の循環器内科医が所属しており、心不全、不整脈、狭心症、心筋梗塞、大動脈瘤、末梢血管の閉鎖性疾患など、心臓と血管に関する幅広い治療を行っています。そうしたなかで当科が現在特に力を入れているのは、大動脈弁狭窄症や僧帽弁閉鎖不全症をはじめとするSHD（構造的心疾患）に対するカテーテル治療です。具体的には、開胸せずに人工弁を留置するTAVI、同じく胸を開けずに僧帽弁をクリップで保持して血液の逆流を減少させるMitraClip、左心耳を閉鎖することで心房細動の患者さんの脳梗塞を防ぐLAACを実施しています。こうしたカテーテル治療は患者さんの負担が少なく、これまで高齢などで手術ができなかった患者さんも治療可能となりうる上に、早期回復が期待されます。

私が専門とする心房細動のカテーテル治療の件数は、ここ3年で2.5倍に増えました。さらに、パルスフィールドアブレーションといわれる不整脈の業界で大変注目を集めている新しい治療を国内で最初に行なうなど、最先端で専門性の高い

医療を提供できる体制を整えていると自負しています。

開業医との連携を 密にするため ホットラインを設置

高齢社会に伴い、心房細動の疾患や心不全が増えています。心房細動の疾患の治療については先にお話しさせていただいた通りで、心不全に関しても専門チームを設置して高度な治療を行っています。

また、当院は心臓血管センターを有しており、循環器内科と心臓血管外科がシームレスに連携している点も強みといえるでしょう。余談になりますが、心臓血管外科 科長の西先生とは医学部

の同級生なんです。学生時代からの付き合いなので、小さなことでも気兼ねなくコミュニケーションをとって、患者さんにとって最適な治療を行うように努めています。

循環器疾患は、かかりつけ医の先生による生活習慣病の管理と、重症化した際の病院での高度な治療が欠かせません。そのうえで双方の連携は重要です。当科では24時間365日、いつでも循環器内科医と直接連絡がとれるホットラインを設けています。さらに最近CCUが

1.5倍に増床し、急性冠症候群などの重症の患者さんのご紹介をほぼお断りせず対応できています。今後も密な関係を築いて、質の高い治療を提供できるよう努めてまいります。

医療機関・救急隊専用06-6946-3544



ドクターからのコメント

患者さんを診察されるなかで、循環器疾患なのか肋間神経痛など他の疾患なのか、診断がつきにくいケースがあるかと思いますが、そうした場合も気兼ねなく紹介いただければ幸いです。

治療・手術などの取り組みや実績についてお話しします。

耳鼻咽喉科の“現在”



耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科 科長

西村 洋 Nishimura Hiroshi

高度な検査・治療を担うことで地域医療に貢献

耳鼻咽喉科は、さまざまな疾患の治療を行なうなか、特に中耳炎の手術に力を入れているのが特徴です。中耳手術としては鼓室形成術などを行っています。高度な感音難聴の患者さんに対しては人工内耳埋込術を実施しています。さらに小児診療にも対応し、高度な医療を提供することで地域医療に貢献しています。

中耳炎の手術と 小児難聴の診療が強み

当科は地域の基幹病院の耳鼻咽喉科として、耳科領域、鼻・副鼻腔領域、咽喉頭領域、頭頸部領域に関するさまざまな疾患の検査・治療を行っています。ただし、頭頸部がんの治療には対応していないため、大阪大学の関連病院とのネットワークを構築しています。



当科の特徴は、まず診療科全体で質の高い診療を行っていることです。そのなかで科長を務めさせていただいている私は、耳領域を専門にしています。慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎が原因で伝音難聴の症状がある患者さんに対し

ては、主に鼓室形成術を行っています。また鼓室

形成術も最近はTEES経外耳道的内視鏡下鼓室形成術（写真）と言って内視鏡で行なうようになってきていますので、侵襲も少なくなっています。

高度な感音難聴で補聴器の効果が不十分な患者さんには、人工内耳埋込術の手術を実施しており、良い効果が得られています。

また、突発性難聴や顔面神経麻痺に対しては、入院でのステロイド点滴加療を行っています。

また、小児耳鼻科外来を設け、CORやプレオージオ検査など、6歳以下の赤ちゃんも聴力検査を受けていただける体制を整えている点が大きな特徴です。

小児難聴以外の疾患にも対応しておりますので、精密検査が必要と考えられる場合は、ご紹介いただければと思います。

地域の連携強化を目的に 当科独自のセミナーを実施

鼻・副鼻腔領域、咽喉頭領域に関しても、私を含めた4人体制のチームで内視鏡下副鼻腔手術（ESS）や鼻中隔矯正術、粘膜下下鼻甲介骨切除術の手術をはじめ、幅広い治療を行って

います。

ESSの際には手術用ナビゲーションシステム（BRAINLAB社）を用いて、安全性と精度の向上を図っています。

地域の患者さんの健康に貢献するためには、地域の開業医の先生方とのより良い関係づくりが不可欠です。当科では独自に「法円坂耳鼻咽喉科セミナー」を毎年冬季に開催しており、中央区をはじめ近隣地区の先生方にご参加いただいている。今期も開催する予定ですので、ぜひご参加ください。

今後も双方の役割を果たして地域医療連携を推進するために、開業医の先生からのご紹介に対して積極的に対応していきたいと考えています。

今後も双方の役割を果たして地域医療連携を推進するために、開業医の先生からのご紹介に対して積極的に対応していきたいと考えています。



ドクターからのコメント

当科は、がん治療を除く耳鼻咽喉科全域の診療を行っています。外来も平日は毎日行なっていますので、お気軽に紹介いただければ幸いです。

Close UP!

薬剤部

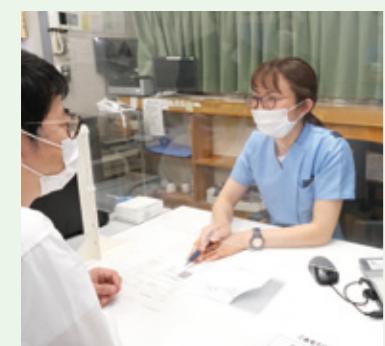
安全に服用していただくための 最後の砦として薬剤業務に取り組む

院内の薬剤に関する業務を担う薬剤部。多種多様な薬剤が開発される近年、薬剤師の役割は大きくなっています。また、当院では医師の働き方改革に伴いタスクシフト・シェアを積極的に進めており、診療の質向上と効率化に寄与しています。



医師の働き方改革に伴い タスクシフト・シェアを推進

当院の薬剤部は、調剤業務や製剤業務、服薬指導など従来の業務を行うとともに、本年度からスタートした医師の働き方改革に伴うタスクシフト・シェアに積極的に取り組んでいる点が特徴です。そのひとつが、医師と合意したプロトコールに基づいて薬剤師が主体的に薬剤業務を行うPBPMの推進。たとえば、医師が診察する前に薬剤師が患者さんと面談をして服用に関する情報収集を行い、留意点などをまとめることができます。こうした取り組みによって医師の問診時間を短縮し、多くの患者さんを診ることが可能となっています。



その他に注力しているのが、入院センターでの業務です。患者さんが入院される際にはさまざまなコメディカルスタッフが情報収集を実施しますが、私たち薬剤師は持参薬や薬剤アレルギー、副作用の有無などに関してヒアリングをしたうえで、安全に治療を受けていただくためのサポートを行っています。また、院内のさまざまな医療チームにも参画し、薬剤のプロとして積極的に意見の発信や服薬指導を行っています。

薬剤部からのコメント

薬剤部では多岐にわたる薬剤業務を通じて、診療の質向上への貢献を目指しています。薬薬連携にも力を入れておりますので、地域のかかりつけ薬剤師はもちろんのこと、医療機関の先生方とも協力して患者さんの在宅医療に貢献していきたいと考えています。



薬薬連携強化を目指し きめ細かいコミュニケーション

近年課題になっているポリファーマシー対策も重視しています。患者さんの服薬状態などを薬学的視点でとらえて、医師に处方に関する提案を行っています。当院は多職種間の風通しが良

く、密に情報共有できる点も強みのひとつです。また、ポリファーマシー対策の一環としてフォーミュラリーも進めています。これは、数多くの薬があるなか、有効性や安全性などさまざまなデータを踏まえたうえで、疾患や

患者さんの状態に応じて処方する医薬品の優先順位を決めておく院内の投与指針で、保険薬局や院外の医療機関との連携において効果を発揮すると考えています。

薬薬連携は、薬剤部が取り組むべき重要な課題のひとつです。入院時だけでなく退院される際にも、情報共有シートにきめ細かい情報を記載し、患者さんを介して保険薬局と共有しています。そして、保険薬局から疑義照会があった際は、先ほどお話ししたPBPMによって迅速に対応するように努めています。

私たち薬剤部は院内外問わず患者さんに安心・安全・効果的に服用していただくための最後の砦として、今後も職務を果たしていくたいと考えています。



産科病棟からのお知らせ

安心安全なお産を

正常分娩から合併症妊娠・ハイリスク妊婦さんの受け入れ
関係診療科と連携を取りながら診療・看護を提供しています。



産後ケアが利用できます！

産後の体を休めながら、 ゆっくり育児を行いませんか？

- ★お母さんのご希望に沿い、赤ちゃんをお預かりいたします。
- ★日中の外出で気分転換できます。
- ★2人部屋をお一人でご利用いただけます。
- ★臨床心理士面談を初回無料で受けることができます。

対象 大阪市内にお住まいの生後6ヶ月未満の乳児とお母さん

育児サークル

お母さんと赤ちゃんと一緒に絵本や手遊びで遊んだり、時期に合わせたトピックスや寝相アートもしています。みなさんが楽しむ時間を過ごしましょう！

対象 生後1ヶ月～1歳までの赤ちゃんとお母さん
(当院出産、産後ケア利用者の方のみ参加となります)
料金 1回 / 500円
日時 第2火曜日 10:00～11:30(月齢6ヶ月未満)
第4火曜日 10:00～11:30(月齢6ヶ月以上)

乳房外来で産後も安心して母乳ケアを

経験豊富な助産師による母乳育児支援を実施しています！

★入院中から退院後も卒乳まで助産師による乳房ケアを受けることができます。

★母乳のトラブルがあれば24時間助産師が電話対応いたします。電話相談でお困りごとを伺ったうえで乳房外来の予約をお取りいたします。

※乳腺炎などのトラブルの方は状況により緊急受診が必要な場合もあります

★他院出産の方も受け入れ可能です。

料金 1回 / 2000円(必要時医師の診察を受けられた方は別途診察費用がかかる場合がございます)
日時 毎週火・木曜日 13:00～15:30



インスタグラムも更新しています！
国立病院機構
大阪医療センター 産科病棟

地域医療連携室からのお知らせ

診療申込書が 新様式になりました

患者さんご紹介の際にFAXしていただく診療申込書を新様式に変更いたしました。当院ホームページより、本様式のPDFファイルおよびEXCELファイルがダウンロード可能です。

●「大阪医療センター 地域医療連携室」と検索してください

大阪医療センター 地域医療連携室

